

<史料紹介>

山口県文書館所蔵アーカイブズガイドー学校教育編（8）ー

山本明史・和田秀作・浅川均・金谷匡人

山口県文書館では、所蔵資料を学校教育現場での活用という観点から捉えなおし、授業で活用しやすい形で提供する取り組みを平成22年度から行っている。その成果は、『山口県文書館研究紀要』第38号～44号に掲載した。また利活用の促進を図るため、当館WebサイトにもPDFの形式でアップロードしている。本稿はその続編である。

当館は、この資料集が文書館と学校教育現場をつなぐ架け橋となることを願っている。授業実践に関し、学校教育現場と情報の共有を図りたいと考えているので、資料の活用方法等について質問があれば、ぜひ当館に問い合わせさせていただきたい。

- ▶ 項目立ては東京書籍の中学校教科書『新しい社会 歴史』に準拠した。本稿のトピックの番号は、前稿からの通番とした。
- ▶ 原稿執筆にあたっては、No.178, 180, 193, 195 を和田, No.179, 181～182, 184～187, 191～192, 194 を山本, No.183 を金谷, No.188～190 を浅川が担当した。
- ▶ 本稿を含め、現在のトピック数は195である。これまでのトピックを検索しやすいように教科書の項目との対応を一覧にしたのがP2～7の表である。Webサイト上ではこの表から各トピックにリンクを貼っているので、日々の授業づくりにご活用いただきたい。

* Webサイトでは授業で活用し易いように、A4用紙にそのままの形で出力できるようレイアウトしています。また、画像にはポップアップ機能をつけ、コピー可能な形式でアップロードしています。アーカイブズガイド学校教育編のWebサイトアドレスは <http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/index/page/id/524/>。スマートフォンやタブレット端末の方はこちらのQRコードからアクセスできます。



章	節	項	トピック名	掲載号
1 古代までの日本	1-1 文明のおこりと日本の成り立ち	1-1-1 世界の古代文明と宗教のおこり	エジプト文明	42号
			医聖ヒポクラテス	43号
			漢字の成立	43号
		1-1-2 日本列島の誕生と縄文文化	アザラシ・トド	43号
	1-1-3 弥生文化と邪馬台国	魏志倭人伝	44号	
	1-1-4 大王の時代	中国・朝鮮との交流(好太王の碑文)	38号	
		古墳文化(古墳の副葬品)	40号	
	1-2 古代国家の歩みと東アジア世界	1-2-1 聖徳太子の政治改革	法隆寺	44号
		1-2-2 大化の改新	中臣鎌足(藤原鎌足)	44号
		1-2-3 律令国家の成立と平城京	和同開珎・皇朝十二銭 多賀城碑	43号 43号
		1-2-4 奈良時代の人々のくらし	古代の戸籍	45号
		1-2-5 天平文化	国分寺の建立	43号
		1-2-6 平安京と東アジアの変化	菅原道真	43号
		1-2-7 摂関政治と文化の国風化	国風文化(源氏物語)	40号
2 中世の日本	2-1 武士の台頭と鎌倉幕府	2-1-1 武士の成長	姓と名字	42号
		2-1-2 武家政権の成立	鎌倉幕府の始まり	38号
			執権政治(承久の乱)	40号
		2-1-3 武士と民衆の生活	武士の生活(女性の地頭) 犬追物(いぬおうもの)	39号 42号
	2-1-4 鎌倉時代の文化と宗教	鎌倉文化(平治物語絵巻)	40号	
	2-2 東アジア世界とのかかわりと社会の変動	2-2-1 モンゴルの襲来と日本	モンゴルの襲来(文永・弘安の役)	38号
		2-2-2 南北朝の動乱と室町幕府	南北朝の動乱	38号
			室町幕府の発展(足利義満)	40号
		2-2-3 東アジアとの交流	東アジアの変動(倭寇)	38号
		2-2-4 産業の発達と民衆の生活	村の自治	42号
		2-2-5 応仁の乱と戦国大名	応仁の乱	38号
	応仁の乱(足軽の活躍)		41号	
	2-2-6 室町文化とその広がり	戦国大名の登場と城下町(分国法)	39号	
		室町文化(連歌)	40号	
3 近世の日本	3-1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一	3-1-1 キリスト教世界とルネサンス		
		3-1-2 ヨーロッパと外の世界	インカ帝国	45号
		3-1-3 ヨーロッパ人との出会い	キリスト教の伝来	38号
		3-1-4 織田信長・豊臣秀吉による統一事業	信長の統一事業	38号
			豊臣秀吉	42号
		3-1-5 兵農分離と朝鮮侵略	朝鮮侵略(肥前名護屋城)	38号
	3-1-6 桃山文化	茶の湯	38号	
		唐獅子図屏風	45号	

章	節	項	トピック名	掲載号	
3 近世の日本	3-2 江戸幕府の成立と鎖国	3-2-1 江戸幕府の成立と支配のしくみ	幕府権力の確立(大阪の陣)	39号	
			大名の統制(武家諸法度)	38号	
			参勤交代(江戸から萩まで)	43号	
		3-2-2 さまざまな身分とくらし	身分の統制(万治制法)	38号	
			村と百姓	39号	
			厳しい身分による差別	40号	
		3-2-3 貿易の振興から鎖国へ	鎖国(かれうた渡海停止)	38号	
			宗門改	39号	
		3-2-4 鎖国下の対外関係	出島	42号	
			アイヌ民族との交易	38号	
			朝鮮と琉球王国(朝鮮通信使)	39号	
		3-3 産業の発達と幕府政治の動き	3-3-1 農業や諸産業の発達	農業の進歩	38号
				農村の風景(四季耕作図屏風)	45号
				寛永通宝	39号
				諸産業の発達(捕鯨)	40号
	藩政時代の漁業(「水産慣例原稿」)			42号	
	3-3-2 都市の繁栄と元禄文化		三都の繁栄	38号	
			時の鐘	45号	
			生類憐れみの令	38号	
			連歌から俳諧へ	40号	
			塵劫記(算術の普及)	44号	
	3-3-3 享保の改革と社会の変化		年中行事(正月の歳徳神と門松)	44号	
			享保の改革(上米の制)	38号	
			医薬知識の普及(『普救類方』)	43号	
	3-3-4 田沼の政治と寛政の改革		寛政の改革(出版の統制)	38号	
			江戸時代のききん	38号	
			ロシアの接近	38号	
			財政難に苦しむ諸藩(藩札)	40号	
	3-3-5 新しい学問と化政文化		蘭学(解体新書)	38号	
			蘭学の発達(「紅毛雑話」)	42号	
オランダ語学習			42号		
教育の広がり(藩校明倫館の時間割)			45号		
教育の広がり(寺子屋)			38号		
伊能忠敬			39号		
滑稽本(「東海道中膝栗毛」)			40号		
古文辞学と国学			40号		
錦絵と忠臣蔵			40号		
伊勢参りと往来手形			40号		
大相撲の興行	42号				

章	節	項	トピック名	掲載号
3	3-3 産業の発達と幕府政治の動き	3-3-6 外国船の出現と天保の改革	異国船打払令	40号
			大塩平八郎の乱	38号
			天保の改革(倭約令)	45号
			雄藩の成長(特産物 蠟[ろう])	40号
			反射炉	44号
			洋式軍艦の建造	44号
4	4-1 欧米の進出と日本の開国	4-1-1 近代革命の時代		
		4-1-2 産業革命と欧米諸国		
		4-1-3 ヨーロッパのアジア侵略	アヘン戦争	38号
		4-1-4 開国と不平等条約	開国(日米和親条約)	38号
			日米修好通商条約	38号
		4-1-5 江戸幕府の滅亡	吉田松陰	39号
			下関戦争(四国艦隊下関砲撃事件)	38号
			幕末の風説書	42号
			「鼓譜」(軍隊の西洋化)	43号
			討幕の密勅	38号
	戊辰戦争とトコンヤレ節		40号	
	4-2-1 新政府の成立		五箇条の誓文・政体書	38号
		藩から県へ(木戸孝允)	40号	
		廃藩置県	39号	
		身分制度の廃止	40号	
		4-2-2 明治維新の三大改革	近代的軍制の成立(徴兵告諭)	38号
			地租改正(地券)	38号
			学制の公布(学制公布当初の教科書)	39号
			学制の公布(小学校の開設)	41号
			お雇い外国人「ムルドル」	44号
		4-2-3 世界とつながる日本と文明開化	新しい貨幣	41号
	太陽暦の採用		41号	
	文明開化(牛乳の奨励)		39号	
	福沢諭吉(「世界国尽」)		42号	
	4-2-4 岩倉使節団と殖産興業	岩倉使節団	38号	
		鉄道の開通	44号	
		殖産興業(富岡製糸場伝習生の募集)	38号	
銀行の開業(第一国立銀行小切手帳)		44号		
内国勸業博覧会		43号		
北海道の開拓(屯田兵募集)		39号		
閣龍(コロンブス)世界博覧会(万国博覧会)		41号		
郵便制度の創設		42号		

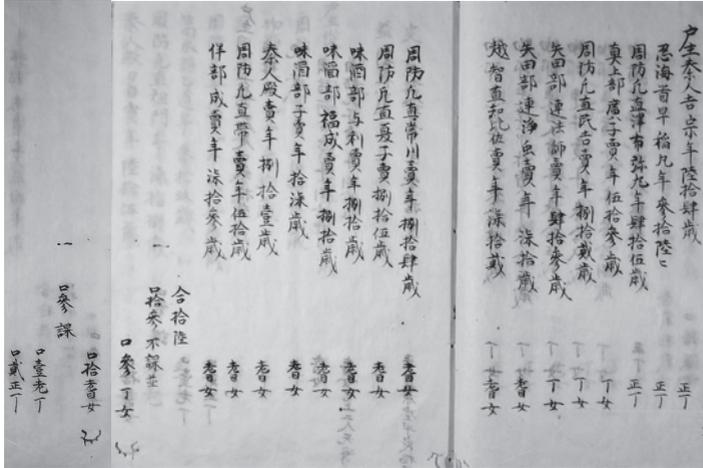
章	節	項	トピック名	掲載号	
4	開国と近代日本の歩み	4-2-5 近代的な国際関係	征韓論(佐田白茅と横山安武)	41号	
			琉球処分	41号	
		4-2-6 自由民権運動の高まり	不平士族の反乱(西南戦争の電報)	38号	
			高まる自由民権運動(新聞紙条例)	39号	
			国会開設の勅諭	41号	
		4-2-7 立憲国家の成立	伊藤博文	42号	
			大日本帝国憲法発布	39号	
			帝国議会の開設(衆議院議員選挙)	43号	
			ポアソナードと民法典論争	41号	
			地方制度の整備(地方自治体としての郡)	41号	
			教育勅語	41号	
				初期議会と条約改正	41号
	4-3 日清・日露戦争と近代産業	4-3-1 欧米列強の侵略と条約改正	条約改正の実現(治外法権の撤廃)	40号	
			大津事件(条約改正)	41号	
		4-3-2 日清戦争	日清戦争(清国船への警戒)	39号	
			下関条約(春帆楼写真)	39号	
			三国干渉(遼東半島還付の詔勅)	41号	
			立憲政友会山口県支部の創立	40号	
		4-3-3 日露戦争	日英同盟(日英博覧会絵ハガキ)	39号	
			日露戦争(軍事郵便)	39号	
		4-3-4 韓国と中国	満鉄の設立	39号	
			韓国の植民地化(朝鮮総督府)	40号	
				孫文	43号
		4-3-5 産業革命の進展	八幡製鉄所の設立	43号	
			産業の発展と鉄道の建設(鉄道競争すごろく)	38号	
				外国航路の開拓	43号
		4-3-6 近代文化の形成	学校教育の普及(戦前の試験問題)	38号	
学校教育の普及(夜学会)			42号		
近代スポーツの導入(野球規則)			38号		
「国民之友」と「日本及日本人」(徳富蘇峰と三宅雪嶺)			41号		
活動写真			44号		
新しい文章(与謝野晶子)			42号		
			日本の美と欧米の美(狩野芳崖)	42号	
5 二度の世界大戦と日本	5-1 第一次世界大戦と日本	5-1-1 第一次世界大戦	第一次世界大戦(青島市街詳図)	39号	
			第一次世界大戦ポスター	41号	
		5-1-2 ロシア革命	シベリア出兵	42号	
		5-1-3 国際協調の高まり	大衆の時代(ニューヨークの超高層ビル群)	45号	
	5-1-4 アジアの民族運動	朝鮮の独立運動(三・一独立運動)	40号		

章	節	項	トピック名	掲載号
5	5-1 第一次世界大戦と日本	5-1-5 大正デモクラシーと政党内閣の成立	大戦景気	40号
			海外移民	45号
			米騒動	39号
		5-1-6 広がる社会運動と普通選挙の実現	小作争議	39号
			5-1-7 新しい文化と生活	関東大震災
		大衆文化の発展(ラジオ放送の普及)		39号
		大衆文化の発展(ヨヘイ画集)		40号
		大衆文化の発展(少女雑誌の創刊)		42号
		読書週間		44号
		鉄道網の整備(山陰本線の全通)		44号
	乗合バスの普及	44号		
	一歩さきゆく自然保護(周南市八代のナベツル)	44号		
	5-2 世界恐慌と日本の中国侵略	5-2-1 世界恐慌とブロック経済	恐慌の打破(利水事業)	45号
			昭和恐慌からの脱出模索(時局匡救事業)	40号
		5-2-2 欧米の情勢と日本	副業の奨励	45号
			五・一五事件	39号
		5-2-3 日本の中国侵略	満州国(首都「新京」観光地図)	38号
			二・二六事件	44号
			重化学工業の発達(海底炭坑の伸長)	41号
		5-2-4 日中全面戦争	戦時体制の強化	38号
			強まる戦時体制(衣料切符)	40号
		5-3 第二次世界大戦と日本	5-3-1 第二次世界大戦の始まり	第二次世界大戦の始まりと日本
	戦時色の深まり(大日本国民体操)			38号
	5-3-2 太平洋戦争の開始		大東亜共栄圏	38号
			軍隊漫画絵はがき	38号
	5-3-3 戦時下の人々		物資の欠乏(陶貨)	39号
			金属製品の供出	41号
山野草の活用			41号	
5-3-4 戦争の終結	空襲(家庭防空)		39号	
	空から見る本土空襲の傷跡(米軍撮影空中写真)	38号		
6 現代の日本と世界	6-1 戦後日本の発展と国際社会	6-1-1 占領下の日本	教育の民主化(墨塗り教科書・仮どじ教科書)	38号
			新しい教科書(『くへのあゆみ』)	45号
		6-1-2 民主化と日本国憲法	日本国憲法の制定	39号
			あたらしい憲法のはなし	43号
			民主政治の確立(県政だより)	39号
		6-1-3 冷戦の開始と植民地の解放	国際連合の誕生	41号
		6-1-4 独立の回復と55年体制	サンフランシスコ平和条約	45号
6-1-5 緊張緩和と日本外交	EC(ヨーロッパ共同体)	45号		

章	節	項	トピック名	掲載号
6 現代の 日本と 世界	6-1 戦後日本の発展と国際社会	6-1-6 日本の高度経済成長	東京オリンピック聖火リレー	43号
			高度経済成長(日本万国博覧会)	39号
			大量消費社会の到来	41号
			山陽新幹線(「ひかりは西へ」)	45号
			公害問題(大気汚染測定車「おおぞら号」)	42号
	6-2 新たな時代の 日本と世界	6-2-1 冷戦後の国際社会		
			6-2-2 変化の中の日本	
			6-2-3 よりよい未来に向けて	アイヌ民族

*網掛けした部分は本号のトピックです。

No.178 古代の戸籍



* 毛利家文庫 30 地誌 38「延喜八年周防国戸籍残欠」

【解説】

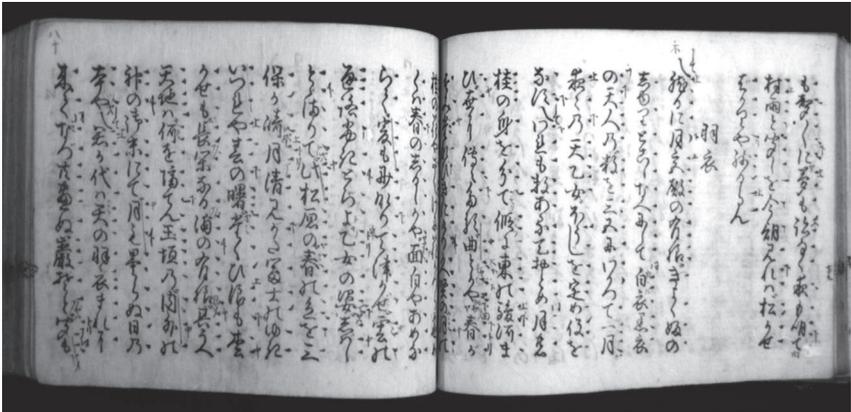
律令国家のもとでは、人々は戸籍に登録されました。戸籍は6年ごとに作られ、各戸ごとに戸主とその家族の名前・年齢・年齢区分・続柄と総計などが書かれています。戸籍は、彼らに口分田を分け与える班田収授を実施する際の基本台帳となりました。

写真は、大津市の石山寺に伝わった經典の紙背に書かれていた908（延喜8）年の周防国玖珂郡の戸籍の一部を江戸時代に転写したものです。これによると、「秦人吉宗」（64歳）を戸主とする戸は、男性が3人、女性が13人の計16人からなっています。年齢区分の内訳は、正丁（21～60歳）が2人、老丁（61～65歳）が1人、丁女（21～60歳）が4人、耆女（きじょ、66歳以上）が9人です。調や庸などを負担すべき成人男性（「課口」）は3人しかおらず、かなり不自然な男女比と年齢構成であることから、この戸籍は実態を反映していない、偽籍と考えられています。

このような戸籍が操作された理由は、調庸などを朝廷へ納める責任を負った国司が、自らの負担を軽減するためでした。時が経過すると戸籍が形骸化していったことがわかります。

* 毛利家文庫 30 地誌 38「延喜八年周防国戸籍残欠」は、転写されたものなので間違いが少なくありません（例えば、1行目の「秦人吉宗」の年齢区分は、正丁ではなく、老丁が正しい）。『山口県史 史料編 古代』や『平安遺文』に収録されているものを利用するほうが良いでしょう。

No.179 室町文化（能楽）



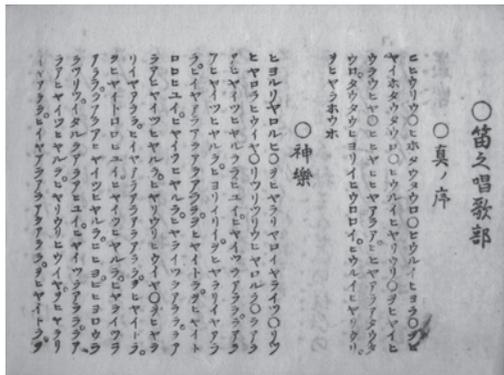
* 小田家文書（柳井市金屋）和漢 137 「下懸囃謡大成」

【解説】

観阿弥・世阿弥父子は、猿楽や田楽など民間で好まれていた諸芸能を集大成し、謡（うたい）・囃子（はやし）・舞（まい）の要素が統一された芸術性の高い能楽を完成させました。また世阿弥は、能楽の理論をまとめた「風姿花伝（花伝書）」を著し、足利義満もこれを保護したことから、能楽は上流階級の間に広まりました。

写真上は1802（享和2）年に刊行された「新改正下懸（しもがかり）囃謡大成」という謡曲の本で、「高砂」ほか代表的な演目が100番収められています。また、巻末に囃子（笛・鼓・太鼓）の演奏の仕方も示されています。写真の箇所は能の演目の一つとしてよく知られた「羽衣」です。羽衣伝説を題材にしたストーリーで、天の衣を返してもらった天女が舞を舞い、天に帰っていく場面です。

写真右は当時の笛の楽譜（唱歌譜）で「ヒヒウリウ」「ヒロホタウタウロ」などと片仮名書きで音階が記されています。



No.181 唐獅子図屏風



* 毛利家文庫 81 写真 17 「永徳常信筆屏風 唐獅子（宮城落成の節献上上品）」

「明治二十一年十一月新宮城御落成之節、献上アラセラレタル永徳常信筆御屏風吉雙之内永徳之筆是ナリ」

此写真八同年四月中、大日本美術協会ニ於テ上野公園ニ美術展覽会ヲ開設セシトキ出陳セラレタルニ依リ、同会ニ於テ之ヲ撮影セシメ寄贈シタルモノナリ」

【解説】

安土桃山時代には、天守や御殿内の柱や欄間には豪華な彫刻がほどこされ、ふすまや屏風には狩野永徳や弟子の狩野山楽らによってはなやかな絵が描かれました。

写真上は狩野永徳の代表作「唐獅子図屏風」です。縦 2m20 cm を超える大画面に雄・雌の唐獅子が力強く描かれており、豪壮な桃山文化を体現する作品です。

現在、宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵されているこの屏風は、江戸時代には萩藩毛利家の所蔵で、1888（明治 21）年、新皇居が落成した際に毛利元徳から皇室に献上されました。また、この写真は、同年 4 月に大日本美術協会主催の美術展覧会に出品された時に撮影されたものであると、台紙に記されています。

写真右は、上の永徳の描いた図柄に合わせて、後に狩野常信によって描かれたものです。明治 21 年に一對の屏風として献上されました（毛利家文庫 81 写真 17）。



No.182 農村の風景（四季耕作図屏風）

* 安部家文書 1526 「四季耕作図」



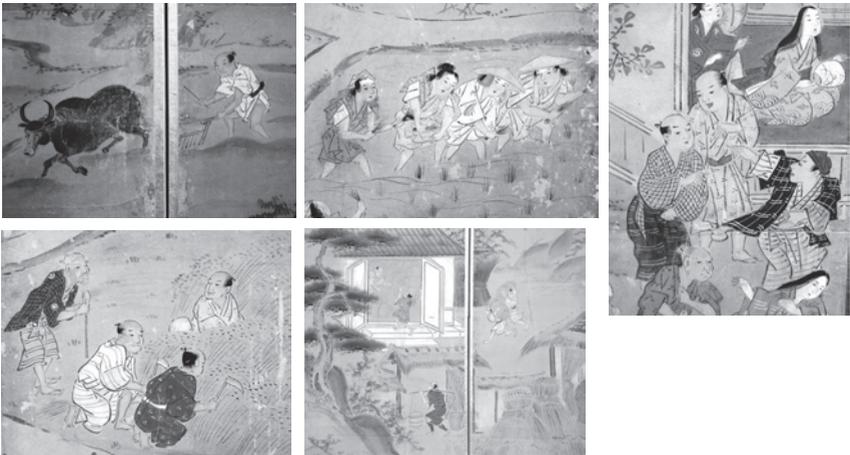
【解説】

一年間の農作業風景を四季の風物とともに描いた四季耕作図は、その年の豊作を予想させる大変お目でたい絵として全国各地で描かれました。

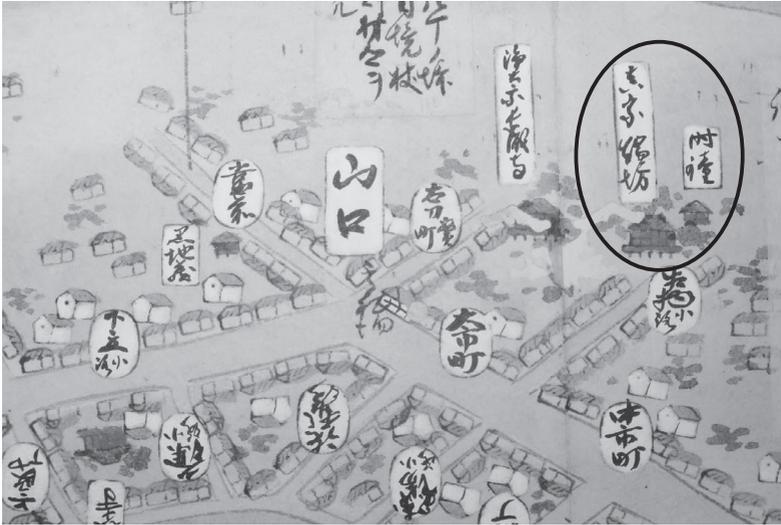
写真は山口の町人安部家に伝えられた「四季耕作図屏風」です。八曲一双の大作で、長府藩の御用絵師笹山養意の作品です。作成年代は不明ですが、1835（天保6）年の同家の道具帳に記載があります。

屏風には、画面右側から、浸種・苗代づくり・耕起・代かき・苗取・弁当運び・田植・竜骨車による揚水・草取・稲刈・結束・稲束運び・脱穀・粃摺・俵詰・倉入れなど年間の一連の農作業が描かれています。

また庶民の生き生きとした表情が印象的で、右隻には一年の豊作を祈っての獅子舞・猿回し・人形遣いと、それを楽しそうに見る人々の姿が描かれ、左隻には収穫を喜ぶ踊りや飲酒する人々の様子が描かれています。



No.183 時の鐘

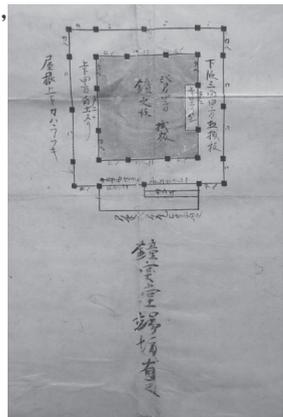


* 毛利家文庫 30 地誌 41 「行程記」の山口大市町付近。「真宗端坊」「時鐘」がみえます。

【解説】

萩の城下に時を告げる鐘が置かれたのは 1686（貞享 3）年のことで、その後 1712（正徳 2）年には山口の町にも設けられました。上の写真は山口の真宗寺院端坊（はしのぼう）におかれた、三間四方・二層瓦葺きの鐘楼堂の位置を示す絵図です。

当時の不定時法では、朝、薄明が始まった時を明け六つ、夕方、薄明が終わった時を暮れ六つとして時刻の基準とし、昼夜それぞれを 6 分割して「時」を刻んでいました。武士を含め仕事（勤務時間）はおおむね朝五つ（明け六つの一刻後）から夕七つ（暮れ六つの一刻前）だったようです。日中の長さは季節によって違うので、不定時法では夏場は冬場よりも勤務時間が長かったことになります。



* 右写真は萩城下におかれた鐘楼堂の図面です。時の鐘は公共性が高く、年々現米 15 石を扶持して常に 2 名の鐘撞を置き、諸士から時鐘料を徴収しました（毛利家文庫 58 絵図 1083 「端坊鐘突堂之図」）。

No.184 教育の広がり（藩校明倫館の時間割）

* 一般郷土史料 912 「毛利十一代史 第二十一冊」

【解説】

諸藩では、学問や武道を教え人材を育成するため藩校が設けられました。萩藩でも、1719（享保4）年に4代藩主毛利吉元が萩城三の曲輪内に藩校明倫館を創設しました。

「文学并諸武芸稽古之次第」および「諸稽古日割」に、明倫館の授業日や休日の規定、一日の時間割、毎月の授業予定を見ることができます。

①授業日

- ・毎年1月12日始業，12月10日終業

②休業日

- ・毎月1日，15日，28日，30日
- ・五節句（人日・上巳・端午・七夕・重陽）
- ・盆（2日間）
- ・城下の神社祭祀日
- ・7月の「講義」と9月の「諸武芸」は休講

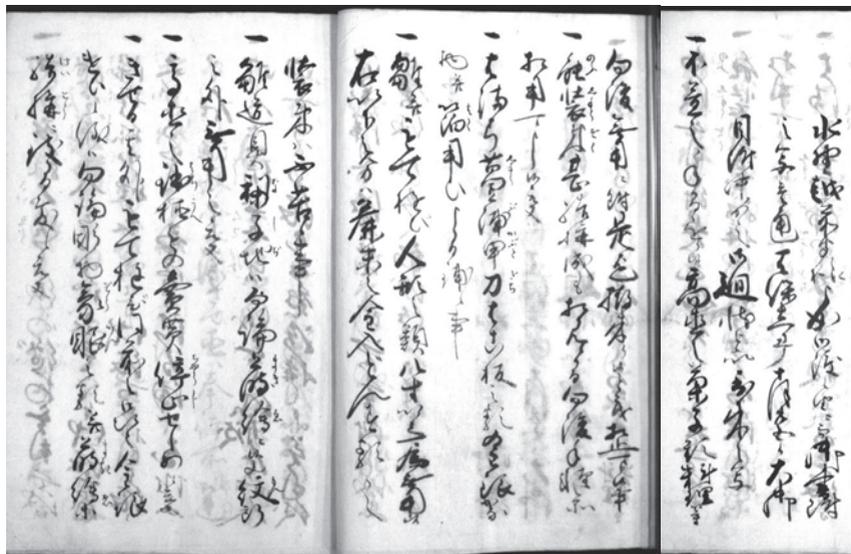
③1日の時間割

- ・朝六つ時から五つ時まで「文学素読」（毎月2日から隔日）
- ・朝五つ時から「儒書講釈」（月に12日）・「兵書講釈」（月に6日）
- ・「講釈」終了後から日暮れまで「諸武芸（新陰・鎗・十文字）」（担当者5名で各5日，計25日）・「射芸」（月に6日），馬術は天気次第で随時

④1か月間の授業日程と授業担当者（写真の部分）

* 1849（嘉永2）年，萩藩は西洋列強からの外圧への対処として，文武興隆と藩政の引き締めを目的に，明倫館を江向（萩市）に移転拡張しました。

No.185 天保の改革（儉約令）



* 武田家文書 449「大目付廻状写」

1841（天保12）年、大御所徳川家齊がなくなると、12代将軍徳川家慶のもとで実権を握った老中水野忠邦は、国の内外の危機に対処するため、幕政改革に着手しました。きびしい儉約令をはじめ人返し令、株仲間の解散、上知令などを出しましたが、上知令に対する強い反対の中で失脚し、改革は2年余りで終わりました。

写真は天保12年10月に出された儉約令の一部で、大島郡土居村の畔頭（くろがしら：村役人）の家に伝えられたものです。

この儉約令では、ぜいたくな菓子や料理、華美な能装束、金銀の金物や箔をつけた破魔弓・羽子板、8寸以上の雛人形、高値の鉢植え、金銀ほか彫刻や象嵌などを施したきせる、高価な小袖、櫛、かんざしなどが禁止の対象となっています。

また、「これらは享保や寛政の改革時にも禁止され、その後も通達してきしたが、次第に軽んじられ華美を競っている」との現状が指摘されています。

* この通達を受けて萩藩が出した触書が毛利家文庫40法令160「御書附控」にあり、『山口県史 史料編幕末維新2』（P212・213）に活字化されています。

No.186 大衆の時代（ニューヨークの超高層ビル群）



* 毛利家文庫 81 写真
105「ニューヨーク市写
真帳」



「紐育市役所」



「第五街 小売商店ノ中心ニ
シテ服装等流行ノ中心ナ
リ」



「ブルックリン鉄橋 約五十年前
ノ建造ナルトモ鉄橋ノ下部ハ
新式戦艦ノ航通自由ナリ」
「マンハッタン鉄橋 橋梁ヲ吊
レル上部四條ノ鉄線ノ重量
六千三百噸（約百七十萬貫
目）アリ」



「ブロードウェイ街
シンガーミン建
物及ウルウオース
建物等ヲ望ム此
付近ハ商業及
財界ノ中心ナリ」

【解説】

1920年代、アメリカは他の国に先駆けて大衆社会を実現させました。ニューヨークには摩天楼と呼ばれた超高層ビルが建ち並び、街には自動車があふれ、家庭には冷蔵庫・洗濯機・掃除機・アイロンなどの電化製品が普及しはじめました。ジャズなどの新しい音楽が生まれ、人々は映画・ラジオ・野球観戦などの娯楽文化に包まれました。

写真は1919（大正8）年発行のイラスト集『New York The Wonder City』です。ニューヨークの超高層ビル、巨大なつり橋、自由の女神像、都市公園、路面電車や自動車、多くの人々が行き交う繁華街の様子などが色鮮やかなイラストで紹介されています。また、それぞれの絵には日本語によるメモ書きがそえられています（キャプション部分）。

No.187 海外移民

* 安本家文書 10「ブラジル移民契約書」・同 4「日本帝国海外旅券」・同 11「郵便チケット」



【解説】

政府は 1884 (明治 17) 年に、サトウキビ畑の労働力を求めるハワイ国と条約を結び、日本人のハワイ渡航を奨励しました。翌年から 1894 (明治 27) 年までの移民を官約移民といい、計 26 回におよぶ移民において、山口県からの移民者の総数は広島県に次ぐ多さでした。

官約移民終了後も、民間の移民会社の仲介により引き続き多くの人々が海外へ渡りました。

渡航先としては、ハワイの他に、アメリカ、カナダ、オーストラリア、フィリピン、ペルー、ブラジル、東アジア諸地域がありました。

写真上は、1917 (大正 6) 年にブラジルへの移民にあたって交わされた移民契約書です。移民会社へ支払う手数料や、現地での作業内容、賃金、休日の規定などが書かれています。山口県知事がこの契約を承認して



ています。

写真中は 1925 (大正 14) 年、日本への帰国の際に在サンパウロ大使館が発行したパスポートです。

写真下は、ポルトガル語で書かれた郵便葉書です。大使館から長男の誕生届を受理したことが通知されています。

No.188 恐慌の打破（利水事業）



* 県庁戦前 A115「長官会議参考資料」のうち、「山口県利水事業計画図（昭和14年）」

左：厚東川流域・
木屋川流域
右：錦川流域

【解説】

大正から昭和にかけての日本の経済情勢の苦境は、「金融恐慌」「世界恐慌」「昭和恐慌」などと呼ばれ、困窮する国民生活の打開に向けてさまざまな経済政策が打ち立てられます。

世界恐慌の震源地となったアメリカでは、フランクリン・ルーズベルト大統領の指揮下、ニューディール政策（新規まき直し）が断行されます。積極的に公共事業をおこし、景気浮揚と雇用確保が目指されました。この政策を象徴するのがダム建設をはじめとするテネシー川開発事業（TVA）でした。

昭和10年代、山口県でも錦川・厚東川・木屋川を舞台に利水事業が積極的に推進されます。戸塚九一郎知事の下に利水調査委員会が組織され、工業用水の確保、発電、治水などの総合開発が計画されました。事業の中核となったダム建設にあたっては、内務省技師内海温清（のち日本土木学会会長）が顧問として招かれました。

この利水事業は、戦前期には、向道ダム・間上（はざかみ）発電所として実現し、徳山・富田地域への工業用水や電力が安定的に確保されました。同時に計画された、菅野ダム・厚東川ダム・木屋川ダムの完成は戦後になりますが、それぞれ徳山・下松、宇部・小野田、長府・下関の工業生産を支えることになったのです

* 完成目前の向道ダム（昭和15年）。山本家文書（山口市）11「錦川利水第一期工事記念写真帖」



No.189 副業の奨励



* 滝口明城文庫 398「山口県副業案内」のうち、「昭和初期の特産品分布図」
左；下関近郊，右；大島郡・玖珂郡・熊毛郡

【解説】

明治以降，経済不況のしわよせは農村部の疲弊に直結しました。農村の維持のために，米作の技術（＝農法）改良や安定的な流通確保など種々の策が講じられましたが，一貫して呼びかけられた勸業政策が「副業奨励」でした。当初は，主要産物である米麦の生産を補強するため，特用農産物として茶・柑橘類などの栽培が奨励されました。なかでも有望視されたのが養蚕でした。

日露戦争以降は，「天産品」から「加工農産」など二次産品へ視線が注がれるようになっていきます。その後も，生産組合や販売組合の設置により組織的な生産が目指され，農村の強靱化が図られます。

1929（昭和4）年山口県内務部発行の『山口県副業案内』の巻末には7枚の特産品分布図が綴じこまれています。大島郡・玖珂郡の蚕糸，玖珂郡の産紙，下関近郊の蔬菜，熊毛郡の塩吠，宇部近郊の沢庵漬，都市部近郊の畜産などが確認できます。

「天産品」主体の不安定な経済構造からの脱却を目的とするものでしたが，今日の「地域ブランド創出」と軌を一にする流れとも言えるかもしれません。



No.190 第二次大戦の始まりと日本



* 武永家文書 926
「太平洋時局地図
キング附録 380
万分の1」のうち、
「南洋諸島明細地
図（第18巻第1
号附録，昭和16
年）」

【解説】

「富国強兵」
「殖産興業」を
掲げた明治新国

家。急速な近代化の達成，日清・日露の対外戦争の経験が，国家の膨張をもたらし，近代日本は軍国主義への歩みを食い止める機会を失ってしまいます。

1939（昭和14）年に第二次世界大戦が始まりました。1940年の日独伊三国同盟，翌年の日ソ中立条約締結を経て，日本もその渦中に足を踏み入れることになります。

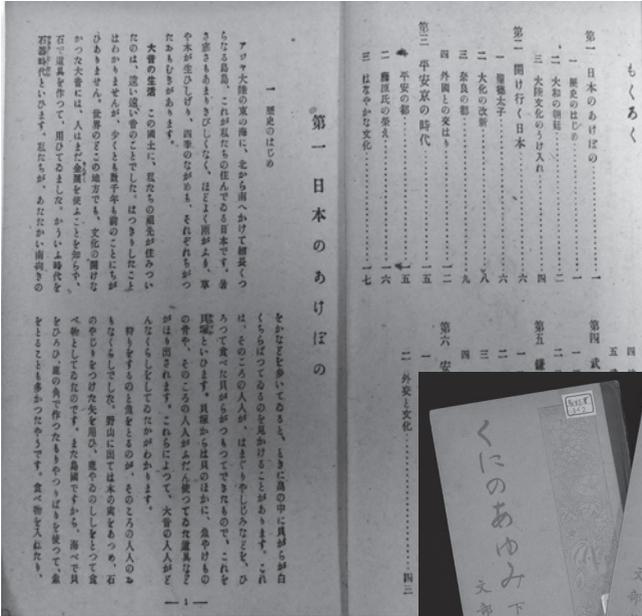
開戦当初のドイツによるヨーロッパ制覇は，欧州諸国のアジア植民地での支配権力の空白をうみだしました。一方で，1931（昭和6）年の満州事変以降，中国との対立は泥沼化し，日本は「拓殖」という名目での南方進出を企てます。そして，「大東亜共栄圏」のスローガンの下，アジアの団結と欧米支配からの解放を旗印に掲げました。こうした日本の動向は，アメリカとの全面戦争を不可避なものとしてしまいました。

1939年，東京で開催された「長官（道府県知事）会議」にあたり作成された資料にある「国民精神総動員」「国民貯蓄奨励」「軍事援助」「下請工業統制」などの文字には，戦時体制構築に向けた時代の雰囲気がいじみでています。

* 写真右は南洋諸島の案内絵葉書（時岡家文書 98）



No.191 新しい教科書（『くにのあゆみ』）



* 教科書文庫
昭和 21-1 「くにのあゆみ 上」
同 21-2 「くにのあゆみ 下」



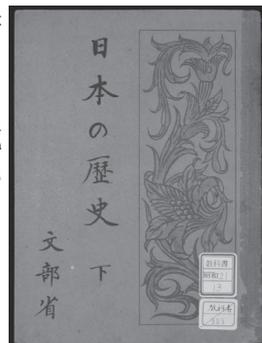
【解説】

1945（昭和 20）年 12 月，GHQ は「軍国主義的及び極端な国家主義的観念」を生徒に注入した中心的な教科として、「修身，日本歴史及び地理」の授業を停止する指令を出しました。日本史および地理の授業は，翌年，新しい国定教科書ができるまで行えませんでした。

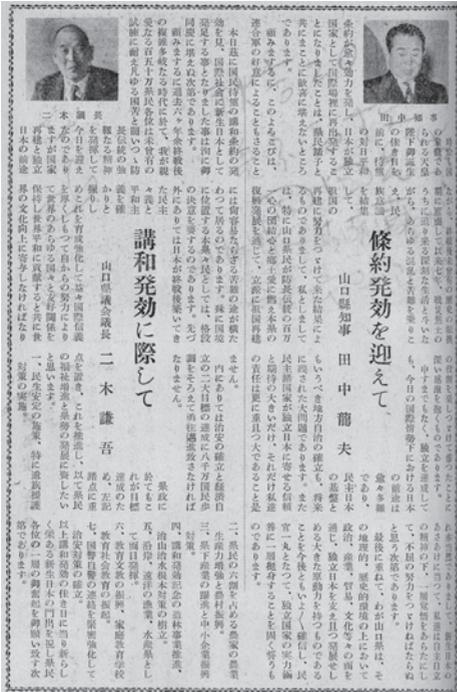
写真上は，国民学校用の新しい日本史教科書『くにのあゆみ』で，執筆者は家永三郎・森末義彰・岡田章雄・大久保利謙です。

冒頭の「日本のあけぼの」の部分を見ると，従来の神話を中心とした記述から，考古学の成果を取り入れた記述へと大きく様変わりしています。

* 『くにのあゆみ』について，中学校用の『日本の歴史』，師範学校用の『日本歴史』が作成されました。写真右は中学校用の『日本の歴史 下』です（教科書文庫昭和 21-13）。



No.192 サンフランシスコ平和条約



* 行政資料 50 知公 6 「県政展望 4 月号～ 9 月号」

【解説】

1951（昭和26）年9月，サンフランシスコ講和会議が開かれ，日本は48か国との間で平和条約に調印しました。しかし，東側陣営やアジアの多くの国々との間では講和は実現しませんでした。同じ日に日米安全保障条約が調印され，日本は引き続きアメリカ軍が駐留することを認め，駐留費用を分担することになりました。

この時調印された平和条約が発効したのは翌年4月28日でした。

写真は県の広報誌「県政展望」昭和27年5月号です。この号には，知事・県会議長・県地方課から，平和条約発効にあたっての文章が載せられています。そこには，独立達成への素直な喜びとともに，民主的な国家作りの基盤としての地方自治の確立の重要性が説かれています。また，その前提としての地方財政の充実や，これらを支える住民の地方自治への参加協力の必要性についても述べられています。

* 写真右は昭和27年5月の広報紙「県政だより」です。「憲法施行5周年」、「住みよい郷土は私達の手で!!」、「講和はいよいよ発効した」の見出しが見え，新しい社会建設への意気込みが感じられます（ポスター昭和27-11「県政だより」5月号 No.32）。



No.193 EC (ヨーロッパ共同体)



* 和田敏英収集史料 584(27の12)「ヨーロッパ共同体」

【解説】

第二次世界大戦後、ヨーロッパは

戦争の傷痕をいやすために、統合されたヨーロッパを創り上げることを目指します。

1950(昭和25)年にフランスのシューマン外相が「重工業、石炭、鉄鋼のヨーロッパ最初の共同体の創設」を提案し、西ドイツ、フランス、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの6か国が参加を表明しました。これをうけて、翌々年にECSC(ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体)が創設され、さらに1958(昭和33)年にはEEC(ヨーロッパ経済共同体)とEURATOM(ヨーロッパ原子力共同体)が設立されました。こうして、かつては相争ったこともある6か国の2億人近くの人々による共同市場が誕生し、ヨーロッパの経済統一が決定的な一歩を踏み出しました。

そして1967(昭和42)年に、上記のECSC、EEC、EURATOMのそれぞれの理事会と委員会を統合して誕生したのがEC(ヨーロッパ共同体)です。ECは、その後他のヨーロッパ諸国へも門戸を拡げながら、域内の市場の統合を完成させて、1993(平成5)年にEU(ヨーロッパ連合)に発展し、政治的な統合も推進しています。この壮大な実験は、時に危機にみまわれながらも現在も進行中です。

写真は、1970(昭和45)年に開催された大阪万博のECのパビリオン(EC館)の案内リーフレットです。「平和への想像」をテーマにした6部からなる展示は、誕生後そう時間がたっていない、ECの熱気を伝えるものでした。

No.194 山陽新幹線（「ひかりは西へ」）

* 行政資料 60 商水 62 「Products of Yamaguchi Japan」

行政資料グラフ山口商工 220 「日立笠戸工場 新幹線車両製造 下松市（写真）」

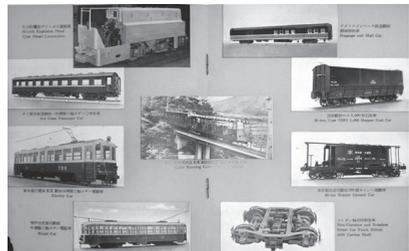


【解説】

東海道新幹線は、東京オリンピック開催の直前、1964（昭和39）年10月1日に開業しました。これにより、東京・新大阪間が超特急「ひかり号」によって約4時間で結ばれることとなりました。

その後も、新幹線は「ひかりは西へ」のキャッチフレーズのもと西へ西へと伸ばされ、1972（昭和47）年に新大阪・岡山間、さらに昭和50年に岡山・博多間が開通しました（山陽新幹線）。

写真は新幹線車両の製造風景です。車体の製造は5社が担当しましたが、写真の日立製作所笠戸工場（下松市）もその一つでした。



* 日立製作所笠戸工場は1917（大正6）年に創業された車両工場です。国内はもとより海外の様々な車両を製造しました（リーフレット1950年代14「笠戸工場案内」）。

No.195 アイヌ民族



* 河崎家文書 1526 「アイヌ風俗絵はがき」

【解説】

よりよい未来に向けて、今日の日本社会が解決すべき課題の一つが「人権の尊重」です。なかでも忘れられがちなのが、北海道の先住民族であるアイヌの人々に対する差別や偏見です。

江戸時代の「蝦夷地」が明治時代に「北海道」に変えられていったとき、近代化の名のもとに、アイヌの人々は土地や漁場だけでなく、固有の生活や文化といった民族としてのアイデンティティーをもうばわれていきました。その結果、困窮したアイヌの人々を救うために、1899（明治32）年に「北海道旧土人保護法」が制定されますが、あまり効果はありませんでした。

ようやく、1997（平成9）年になって、アイヌ民族初の国会議員である萱野茂らの尽力により「アイヌ文化振興法」が制定されます。さらに、2007（平成19）年国連において「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択されたのをうけて、翌年に「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が国会で採択されました。これにより、アイヌの人々は、日本列島北部周辺や北海道に先住し、独自の言語や宗教、文化を持つ先住民族として公式に認められることとなりました。

写真は、アイヌの風俗を紹介した8枚組の絵葉書です。右は、人の世界に熊の姿であらわれたカムイ（神）の魂（霊）を、天上の神々の世界に送り返す「熊送り」と呼ばれる祭式儀礼の様子を写したものです。